

飛鳥藤原宮跡発掘調査部の展示室

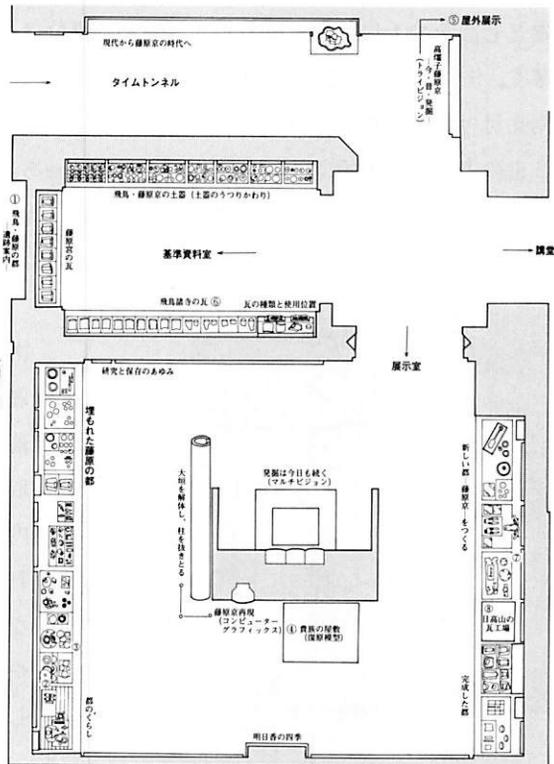
飛鳥藤原宮跡発掘調査部

公開部門の中心となる展示室が1989年6月にオープンしたので、その概要を紹介する。

展示スペースは、導入部分・展示室（190㎡）・基準資料室（45㎡）・屋外展示の4つにわかれる。導入部分には、ボタンひとつで主要な遺跡の写真と、最近発掘した遺跡の概要がモニターに映し出される飛鳥・藤原地域の遺跡案内板。最新の調査成果を展示した速報コーナー。〈現代から藤原京の時代へ〉と題したタイム・トンネルなどがある。

展示は、古代国家形成のうえで画期的な都として評価される藤原宮・京が、発掘調査によってどこまで復元できるかをわかりやすく説明することを目的とした。展示室は大きく5つのブロックにわけ、さらにいくつかのテーマごとにまとめ、出土遺物・ジオラマ・模型・写真・図・イラストレーションを使って復元した。イラストは穂積和夫氏に依頼し臨場感あふれるものになった。〈新しい都—藤原京—をつくる〉では、藤原京がつけられるまでを、〈完成した都〉では京と宮の規模と構造についておもに図や写真を使って紹介。〈都のくらし〉では当時の役人や貴族・庶民の生活を出土遺物で、〈埋もれた藤原の都〉では平城遷都後の藤原京域がどうなったか、〈研究と保存のあゆみ〉では忘れ去られた藤原宮が調査・研究によって甦える過程を写真や図を使ってパネル展示で示した。このほかに、〈藤原京再現〉と題したコンピューター・グラフィックス、〈山田寺東回廊の発掘〉・〈発掘の進めかた〉・〈出土遺物の整理〉を紹介する9面ダイナミック・マルチ・ビジョン、タイム・トンネルの正面を飾るトライ・ビジョンなど、様々な映像技術を利用してビジュアルな展示づくりをめざした。基準資料室は、もう少し詳しく調べたいという一般の方々や研究者を対象に、年代のきめてとなる瓦や土器を年代順にならべている。（平日午前9時～午後4時半、土曜9時～12時まで開館。日曜・祝日、第2・第4土曜日、年末年始休館、入場無料。）

（大脇 潔）



展示室の展示配置